公立久米島病院だより

8・9月の休診日:毎週日曜・月曜、8/11日(木)、9/19日(月)、23日(金)

☎985－5555
受付時間 午前8時30分～11時 午後1時～4時

＜新型コロナウイルス感染症による一般診療制限のご報告＞

人口が6,959人（2022年6月1日時点）の久米島において、2022年6月11日の新型コロナウイルス感染症患者数は15名で、当院のコロナウイルス感染対応病床の使用率は50%前後で推移していました。そのため、久米島内での新型コロナウイルス感染拡大による医療提供体制等が逼迫した状況であると判断し、2022年6月13日から同年7月2日までの20日間、外来診療の一部制限を行いました。

具体的には、成人および小児の発熱外来、新患外来の受付時間の短縮を行うことで、救急患者・入院患者への対応はそのままに、発熱外来への医療資源の集中を行うこととしています。不急な受診への対応に対する島民のみなさまのご理解と、行政との密な連絡と迅速な対応があってこその診療制限となりました。

多大なご理解・ご協力をいただいた結果として、島内のコロナウイルス感染の状況は悪化することなく、外来診療の制限期間後半には感染者数はピークを超えたことが確認されたため、予定通りに診療制限を終了しております。今後も予断を許さない状況ではありますが、引き続きご協力を頂ければ幸甚です。

今後も、当院の基本理念の１つである「1. 患者様が安心できる医療を進めるとともに、病気や健康管理に気軽に相談できる久米島住民の主治病院をめざします」を実行していくため、状況に応じた迅速な実行動に努めてまいります。どうぞこれからも、忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

「兄弟喧嘩は成長の糧！」

公立久米島病院
小児科　渡邉　幸

子どもたちの待ちに待った夏休みです。家で過ごす時間が多くなる夏休みは、兄弟喧嘩が増えがちですね。今回は兄弟喧嘩についてです。

＜兄弟喧嘩は社会性を育む＞

大前提として、思いがぶつかり合って兄弟喧嘩をすること自体は全く悪いことではあ りません。言葉が未熟なうちは手や足が出ますが、徐々に「口喧嘩」が増え、そのうち 喧嘩せずに「交渉」ができるようになってくると、激しい喧嘩は減っていきます。この ような経験はそのまま人間関係づくりの土台になっていきます。

＜兄弟喧嘩を解決する経験こそが大事＞

子どもが喧嘩を解決する力を育むために大事なことは、実は「親がなるべく介入しない」ことです。親が解決しようとしたり、片方の肩を持つと、子ども同士の関係性に歪みが生じます。納得できない思いが蓄積すると、憎しみの気持ちが加わり、喧嘩はエスカレートしやすくなります。自分たちで解決する経験が少ないと、いつまでも手や足が出る喧嘩が続いてしまいます。

＜親が介入する時のポイント＞

喧嘩がエスカレートしている場合など親の介入が必要なときもあります。その場合、親は「勝ち負けを判断する審判」ではなく、「中立な代弁者」となります。片方の言い分を聞いたらそのままを相手に伝え、もう片方の言い分を代弁して、、というのを繰り返しているうちに、気持ちが徐々に落ち着き、自分たちで解決策を伝えることができるようになります。

＜喧嘩のルールについて子供と一緒に考える＞

喧嘩のルールや親が介入するタイミングについて、子供と決めておくことも大事です。例えば「噛む・物をぶつけるのは禁」「喧嘩で片方が泣いたら親は手助けが必要か声をかけ、子供が必要といえば介入する」「３度目の声かけでも喧嘩が終わらなければ親は怒ってもいい」など。子どもは基本的に親が入ってくるよりは自分たちで収めたいので、徐々に解決策を探すようになります。

お子さんに発達の凸凹があったり、親が心身共に疲弊している場合など、上記のような手順を踏みにくいかもしれません。そんな時はお気軽に小児科等でご相談ください。